

『人生ハンド仏句』4月号) 85) 【行脚修行を通して伝わる「神仏の慈悲」】

読者の皆様方「ただいま」

お陰様をもちまして、『全国平和祈願行脚』より、無事に戻って参りました。

いやあ、本当に何事もなく、風邪を引くこともなく、無事に真成寺の仏様のもとへ、戻り着くことが出来ました。思えば、長かったなあ。前半の10日間(2月17日～26日)、後半の22日間(3月3日～24日)、合わせて32日間の長旅でした。

中学卒業後、親元を離れて身延山久遠寺へ入行した事に始まり、東南アジアやアメリカなどへの1人旅の経験もあったので、今回は「日本国内の旅だし大丈夫、滅多なことはないよ」と、そんな気楽な気持ちで臨んだ旅だっただけに、ホームシックにもかかった時には自身驚きましたネ(恥)。そんな自分との精神的な戦いもありました。

また肉体的には、例えば千葉県中山法華経寺で行われる百日の荒修行なんかだと、1日のスケジュールが決まっている為、そのスケジュールの中で修行していればいいわけですが、今回は全部自分勝手に決めて行動しなければいけない。それがかえって厳しかった。休もうと思えば休めるわけですが、それでは修行にはならない。だから今日も目が覚めたら、次の目的地までお題目を唱え、太鼓を打ち鳴らしながら歩く。トットコ、トットコ歩く。毎日同じ繰り返し。ただ、今まで訪れたことのない神社仏閣への参拝。地理的状况が全く分からない為に、「今夜は何処まで行けるのか?行き着いた場所で休めるところがあるのか?」そんな不安が、毎日襲いかかってくる。「身に付けている衣は汗でビショリになり、洗濯するのも山の雪解け水を、折れ落ちている木の枝や、笹の葉などで流れをせき止めての、水洗い。時にはコインランドリーを使用することもあったが、洗剤が無い為に水洗いは同じ。ならばと、お金のかからない手洗いで済ませる事が多かった。履いている靴は一足しか持っていないため、雪や雨でビショビショに濡れてしまえば、次の日もそのまま濡れて気持ちの悪い靴を履くしかない。何もかも不自由な毎日です。そんな不自由と思っている自分だが、実は普段の生活が自由すぎたのではないか?恵まれすぎていて、当たり前の事が不自由に感じる様になってしまっているのかも知れない。そして、「自分は紛れもなく生かされているではないか?恵まれていないか?もつと、もつとその事に気がつける自分に戻らなければいけないのではないか?」「行脚をしながら、そんな事を改めて考えさせられた。そして、普段忘れがちになる、「感謝の気持ち」が実感として湧いてくるという体験をしました。

今回の行脚で、初心に戻る事が出来ました。道中知り合った、ありがたい出会いも頂戴しました。こんな私に食事を振る舞い、宿泊までさせて下さった人もいました。そんな人達の温もりを感じるにつれ、「生かされている自分に気がつく」事が出来ました。

また神仏様のお慈悲の有り難さを体感させてもらう事も多々ありました。例えば、自分の参拝予定に入っていなかった神社仏閣をお参りさせてもらえるご縁に恵まれたり、節目節目で、頭の悪い私にも気がつける様に、分かりやすい形で教えて下さる事もありました。

32日間のどの日の、どの瞬間を切り取ってみても、感動・感謝・感応が溢れんばかりに

含まれています。そんな今回の『行脚体験記』の中でも、特に紹介したいエピソードを、感謝の気持ちを込めて、皆様に紹介させて頂こうと思っています。

その前に、一言申し上げておかなければいけない事があります。それは、今回の行脚を志した時に、ご迷惑を掛けることを承知で応援して下さった檀家・信者の皆様へ、先ずはお礼の気持ちを述べたいと思います。「縁の下の力持ちとして、陰で支えて下さって頂いた檀家・信者の皆様、本当に有り難うございました」。

また、私が留守の間、真成寺と経妙寺の二ヶ寺を掛け持ちしなければいけなくなったにもかかわらず、快く送り出して下さった真成寺住職(父)・不安な気持ちを与えまいと必死にこらえながらエールを送ってくれた母親と妻へ、「心配かけましたが無事に戻ってきました。有り難うございました」。たまに電話すると、電話口で「父ちゃん・父ちゃん」という淋しそうな声で呼び掛けてきた娘の天花にも、「待たせてごめんね。天花の声で、父ちゃんホームシックにかかったよ(笑)」。

本当に皆様の陰の支えがあったればこそ成就出来た行脚だったことは間違いありません。改めて、皆さんに感謝の念を送らせて頂きます。「有り難うございました」。

さて、それでは合計60ヶ所を越える、神社仏閣の行脚旅行記をご紹介して参りたいと思います。

まず2月17日に魚津を出発し、福井県は【永平寺】へ参拝しました。永平寺は禅宗の総本山ということで、前々から参拝したいと懇願していた寺院でもありました。そんな永平寺に到着してみると、心地の良い靈気が漂う御山で、境内周辺の神社を参拝させて頂き、境内に入るご挨拶を終え、いよいよ境内地へ足を踏み入れました。

お寺の中に入ると、あっちにもこっちにも、長い長い階段が目に見え込んできました。その長い階段を進みながら、仏様を見つけては『妙法蓮華経 如来寿量品第16 自我得仏来』・『南無妙法蓮華経』と唱え、「世界平和 国土安穩 五穀豊穰 万民安楽」と祈願して次から次へと巡拝しました。そしてふと気がつくと、私の後ろには7〜8人の身知らぬ参拝者が合掌をして、一緒に後を着いてきては、同じように合掌して私の読経が終わるのを待っているではありませんか。

その人達は、私が永平寺の僧侶だと勘違いしていたのか？そこらへんは定かではないが、どちらにしても、私としては仏様が、「今日から始まった行脚は、後ろで合掌している人達の思いも背負って、シッカリ平和祈願の巡拝をしてくるんだぞ」と、そんなメッセージを込めて見せて下さったものと感じました。

そんなメッセージを胸に、永平寺を後にしました。次に向かったのが三重県は【伊勢神宮】です。この伊勢神宮では、「南無妙法蓮華経」と唱えるニセモノ僧侶と出会う事になりました。

さて、この続きは次号に続きます…。

合唱 副住職 谷川寛敬